

第 51 回全国自治体病院学会抄録

隠岐島前病院の取り組み

隠岐広域連合立隠岐島前病院 院長 白石吉彦

隠岐諸島は島前（約 6200 人）と島後（約 1 万 6000 人）より成り、島根半島から約 50～70km 離れた日本海に浮かぶ。本土の境港または七類港からフェリーで約 3 時間、高速船（冬季は運航なし）で 1 時間の距離である。島前は西ノ島（西ノ島町 3200 人）、中ノ島（海士町 2400 人）、知夫里島（知夫村 650 人）の 3 島に分かれている。島前の 3 町村には開業医はなく、それぞれ町村立の国保診療所を持ち、島前の中核的医療施設として隠岐島前病院（以下当院、一般病床 20 床、療養型 24 床）がある。

常勤医 6 名が当院、同じ西ノ島にある浦郷診療所、内航船で 15 分の隣の島にある知夫診療所の 3 つの医療機関で勤務する。眼科、精神科を週に 1 回、耳鼻科、整形外科、産婦人科を月に 2 回非常勤医師を招聘している。

当院、隠岐病院（島後、115 床）、松江赤十字病院、島根県立中央病院間で 1997 年より放射線画像の読影システムを運用している。当院からは年間 1000 例程度ある CT を島根県立中央病院の放射線科医に読影依頼し、緊急時には専門医に搬送の必要性や治療内容を相談する際にも利用している。

各診療所は 2006 年に、当院は 2008 年に Web 型電子カルテを採用し、島前の各医療機関で電子カルテが相互に利用できる。2011 年には PACS の運用開始し、同様に各医療機関間で共用利用を可能としている。これにより島前の医師間で症例の相談を容易にし、また医療情報をシームレスにつなぐ。

TV 会議システムを設置しており、診療所—当院間では診療所医師不在時に看護師と相談したり、若手医師の診療所勤務時に診察アドバイスができる。当院—島根県立中央病院総合診療科間では週に 1 回定期的に合同カンファランスを開いている。また島根大学からの皮膚科診療支援を受けたり、各種勉強会、研修会の聴講にも利用している。

当地では、小規模ゆえに救急での患者の受け入れから、一般病床での治療、療養型でのリハビリ、その後の在宅への往診や訪問看護といった一連の流れに継続的にかかわる。退院時には在宅サービス調整会議で在宅系福祉分野のスタッフとも連携を取っている。この会議は 1998 年より開催されており、院内で定期的に月 2 回開催することによって、多忙な医師が参加しやすく、また福祉スタッフにとっては病院の敷居が低くなり、医療福祉スタッフ全員で情報の共有化が図られ、密な連携が取れている。

患者のニーズ、この地域のニーズに応えるべく総合医を中心として病院全体として患者にかかわる。自分たちの医療が本当にその人および家族の幸せにつながるように生活ベースで支える福祉スタッフとも連携をしながら医療を提供している。当院での総合医療、総合看護を IT を利用して発信するとともに、次世代の医療者の育成を考えてきた。年間 100

名の医学生看護学生などの受け入れを行うとともに、今年度は16名の研修医の地域保健研修を行っている。